

G7保健フォローアップ・サイドイベント における 岸田文雄総理大臣の開会挨拶

1 冒頭

本日は、ジョシュア・ウォーカー・ジャパンソサエティ理事長を始め、皆様にお会いできたことをうれしく思います。

日本は2000年の九州・沖縄サミット以来、国際保健をサミットの柱に据えてきました。経験から学ぶことができるのが人類の強みです。新型コロナパンデミックの教訓から学び、G7首脳は5月の広島サミットで国際保健のリーダーとして行動し世界全体に貢献する決意を示しました。

国際社会は、将来の健康危機への予防・備え・対応：「PPR」を強化していく必要があります。ユニバーサル・ヘルスカバレッジ達成に向けた取組を進めなければなりません。感染症危機下においては、特に、ワクチン等の感染症危機対応医薬品等：「MCM」が公平に行き渡ること、資金が円滑に動員されることが極めて重要です。

2 MCMへの公平なアクセスの確保

MCMへの公平なアクセスには、研究開発、製造、ラスト・ワン・マイル・デリバリーまでの包括的な取組が重要です。

このため、G7は、公平性、包摂性等の基本的な考え方や原則を「MCMへの公平なアクセスのためのG7広島ビジョン」として発表し、G20やWHO等と具体的な議論を行っています。

日本は、「広島ビジョン」に基づき、「MCMに関するデリバリー・パートナーシップ(MCDP)」を立ち上げました。これは、日本が世界に先駆け実施した新型コロナ・ワクチンに関するラスト・ワン・マイル支援で得た知見や教訓を活かすものです。今後、MCDPは、デリバリーに焦点を当てた協力の枠組みとして機能することが期待されます。

3 新たな円借款制度の創設

円滑な資金動員については、国際協力とともに、国内の資金動員、そして、民間資金動員の拡充・加速が必要です。

本日、ここに、日本の新しい円借款制度の創設を発表します。

これは、技術協力の提供と併せて、借入国による予防・備えの強化の取組に応じて支援を拡充したり、パンデミック発生時の対応に必要な資金を速やかに提供したりする仕組みです。

4 グローバルヘルスのためのトリプル・アイ

民間資金動員については、広島サミットで承認された、インパクト投資を通じて民間資金動員を加速させる、グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ：「トリプル・アイ」の立ち上げを宣言します。

新しい資本主義のグローバルな展開とも言える「トリプル・アイ」への、ゲイツ財団、GSG諮問委員会、インパクト・タスクフォース始め関連機関からの御協力に、感謝申し上げます。

本年8月、JICAは、ブラジルのドトル・コンサルタ社の「医療アクセス改善事業」へのインパクト投資に調印しました。これは、AIを活用して、低中所得者にプライマリーヘルスケアを提供するものです。また、エーザイ株式会社は、国際保健におけるインパクト会計に取り組んでいます。

こういった先行例も見ていただきながら、各国企業・機関の皆様には、トリプル・アイへの更なる参画を呼びかけたいと思います。

5 結語

日本は、UHC達成とPPR強化のためのこれらの取組を、皆様を始めとする多様なステークホルダーと連携しながら、着実に進めていきます。
ありがとうございました。

(了)